

# 立命館大学

## 応用人間科学研究科 国際推進企画

### Dr. Giovanni Miselli

#### ワークショップのお知らせ

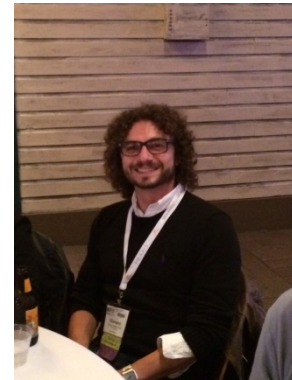
期日：8月22日 ワークショップ 無料 9:00-12:00 (通訳付き)

定員：40名

対象：応用人間科学研究科院生、修了生、応用人間科学研究科へ進学を検討している学生、社会人

場所：創思館 401・402

ジョバンニ・ミセリ博士は臨床心理学をパルマ大学で学んだ後、ミラノのIULMで博士号を取得し、現在イタリアで自閉症児とその家族を支援する研究実践を行っています。イタリア各地の大学院で教鞭を撮り、IESCUM、ABAI イタリア支部の理事、ACBS イタリアの理事長も努めています。アクセプタンス&コミットメント・セラピーやRFT（関係フレーム理論）の研究と実践をイタリア各地で積極的に行っています。



**ワークショップ：発達障害と自閉症へのACTとペアレント・トレーニング—困難な状況での価値に基づいた子育て—**

発達障害のある人の家族や保護者は、日々、困難な状況に直面し、強い慢性的なストレスにさらされています。多くの研究者がネガティブな考えや感情、身体的な感覚に親が対処することは大変むづかしいということを指摘しています。体験の回避は子どもの行動的、情緒的、抑うつに関連しています。同時に、親のストレスや罰を用いたような教育的やり方とも関連しています(Blackledge, and Hayes, 2006; Coyne & Murrell, 2009).それゆえ、従来の伝統的な認知行動的なペアレント・トレーニングを拡大し、保護者や親の複雑な心理的ニーズを見つけて、それを考慮することができる指導方法と効果的でうまくいくような子どもの行動のマネジメント方法を組み合わせることが必要です(Blackledge and Hayes, 2006; Pergolizzi et al., 2005)。伝統的な認知行動的な方法にACTの原理を統合したペアレント・トレーニングは子どもとの教育的、情緒的関わりと複雑に関連した困難な

個人的体験を親や保護者がアクセプトすることを高めていくことを目的としています。さらに、価値を大切にし、子どもを一人の人間として尊重しながら、問題行動のマネジメントに共同的に関わっていく能力を高めることを目的としています。このワークショップでは、ACTのプロセスを紹介し、認知行動療法的なペアレント・トレーニングと統合し、ACTのプロセスから見たときのうまくいかない子育ての捉え方に焦点を当て、支援に関わる人たちがロールプレイや体験的なエクササイズ、マインドフルネスのエクササイズをいろいろな形態（個人やカップル、小集団）で実施することを通してACTのプロセスを高め、促進していく手助けをしていきます。

#### お申込み

応用人間科学研究科事務室へ、  
参加予約を行ってください。

---

#### Giovannni Miselli 先生 WS 申込書

名前	学籍番号（研究科院生） それ以外の方は連絡先（e-mail、電話番号など）